

4月6日に次いで8月3日に調査。干潮が12:15の4cm、満月が8月2日であった。

10時過ぎ頃から浜に降りた。南風が強く、海面が上がっているせいか、沖の方には行けなかった。

調査は干潟の縦横20cmの区画のなかをシャベルで10cm程度掘り返して貝類を探すもの。これまでと同様足洗い場の少し東から始めた。だんだん沖の方に移動し、



西浜 11時50分頃

7回目で2cmくらいのシオフキを発見。他の所では貝類は見当たらなかった。カニの穴はけっこうあるが、生物相は貧弱な状態が続いている。

一箇所、米粒くらいの砂の塊を見つけた。専門家に伺ったら、コメツキガニかチゴガニでないかのこと。ここではオサガニが主で、種が増えるのはいいこと



7回目で出てきた2 cm くらいのシオフキ

と思われる。

これまでと同様、貝類が殆どいないことを確認して、沖の方を広範囲に熊手で探した。

取れたのは1.5cmサイズのアサリ稚貝1個。また、飛び出していた4.9cmのハマグリ



飛び出していたハマグリ

1個。4月に取れたサイズより大きい。おい



砂粒 カニによるもの

しかった。大潮の干潮時などに、大きな貝が飛び出しているのを時々見る。ハマグリは今年の7、8月には小さいが6個取れたし、今年の4月でも2個取れたので期待していたが。

貝の取れ具合を聞いてきた人によると、行くことは禁止されているが、沖合ネットの外では20個くらい取れるとのこと。

海浜公園では、浜の中程に東と西に分ける網が張られている。この網は子供の水遊びなどで、アカエイが来ないようにするためか、人々が海に入って遊んでいるのは東側半分。西側は海には入れるが、波打ち際にずっと浮泥の層があり、足を取られて入れない。ただ西端まで行くとぬかるみが減って海に入ることができる。



網の西側の浜 岸近くにぬかるみがあって足を取られる。

今回、西の方に行ってみた。ぬかるみを越えると普通の砂浜になるが所々足が沈むところがあり不気味である。そこであまり沖には行かなかった。シオフキの稚貝が2個出てきたところもあったが、東側同様貧相であった。

帰り、西の区画の相当沖の網に近いところで水に浸かって潮干刈りをしていた人々と一緒になった。地下足袋のようなものなど、装備をしっかりとっていた。大きさ、色合いが自分と同様のハマグリを10個程度取っていた。

話によれば人の行かないところでないと数は取れないとのこと。

海浜公園の渚ではハマグリだけがある程度生息できるようである。